

ながみねファミリーセンター30年の歩みに感謝。

岡山 富士男

2009年から2011年の3年間館長としてのながみねファミリーセンターで働きをさせていただき感謝でした。ながみねファミリーセンターは私にとって、最も長く働きをしてきた場所であり、私自身を成長させてくれた場所でもあります。水泳を中心に指導をしていた若い時代は、いろんな方々に支えていただきました。水泳を中心に指導をしていましたが、特に成人水泳の時間は、皆さんの素晴らしい笑顔の中、楽しく水泳をすることができました。また、レッスン時間以外でもボランティア活動や食事会など私には忘れられない時間になりました。今でもながみねファミリーセンターを訪ねると笑顔で声をかけられ大変うれしい思いです。ながみねファミリーセンターに館長として働きを始める時はその責任を重く感じていましたが、会員の皆さんの協力で行事など一つ一つを成功させることができました。YMCAで働いている喜びを感じる時でした。責任の重さを感じているものの、自分ひとりではできないことばかりで、改めて周りの方々にささえられていることを感じていました。時には厳しくお叱りをいただくこともありましたが、YMCAが良くなるためのことであり、今思うと本当に皆さんがYMCAを愛してくださっていたことを強く感じています。YMCAは会員の皆さんの手によって支えられています。ながみねファミリーセンターに会員組織のひがしワイズメンズクラブが設立されたことは私にとっておおきな喜びでした。その当時は各地域YMCAにワイズメンズクラブがあり、地域奉仕を中心に活動をされていましたが、ながみねファミリーセンターにはサポートクラブがなく、何とかワイズメンズクラブを設立できないか感じていました。そのような中、設立準備がなされ2004年に設立し活動が始まりました。私は当時副館長の役割をいただいていたのですが、連絡主事として皆さんと活動を始められたことは私自身にとって大きな力になりました。多くの会員の皆さんと交流ができ、ネットワークも広がり、YMCAでの働きが幅広くなってきたことを思い出します。クラブ会員の皆さんの行動力に引っ張られながら、暮らしやすい地域づくりを目標に皆さんと働きができたことは大切な思い出です。ながみねファミリーセンターが25年目を迎えた年に老朽化が大きな課題でした。私が最初ながみねファミリーセンター（当時はながみねセンターでした。）に来たときは、周りは芝の畑でその中にぽつんとありました。今では



周囲にたくさんの住宅や商店が立ち並び大きく環境が変わりました。通称国体道路ができると車の渋滞も出てくるようになりました。いろんな課題がある中、ながみねファミリーセンターがリニューアルをすることになりました。この時も運営委員の皆さんとワイズメンズクラブの皆さんが背中を押していただき進めることができました。プログラム会員の皆様には長期の休館をさせていただきご迷惑をおかけしましたが、皆さんのご協力をいただきリニューアルをすることができました。皆さんのご意見をすべて叶えることはできていないかと思いますが、限りある中で、皆さんに気持ちよく利用していただくためにはどうしたらよいかを考え、多くの意見をいただき計画をしたことも私の良い経験になりました。皆さんとこれまで歩んできた30年を迎えた今、変えなければならないこと、変えてはいけないことをしっかりと考えながら、さらなる歩みをしていかなければならないと感じています。地域の特色としては、福祉施設との協力関係が強いYMC Aと感じています。現在、阿蘇の地で社会福祉の分野で子ども達の集う認定こども園で働きをしています。2013年に阿蘇市の公立保育園の民間委託を受け、2016年に園舎を新しくしていただき、現在、120名の子ども達と毎日過ごしています。新園舎建設時にはながみねファミリーセンターのリニューアル時の経験が生かされました。阿蘇の地に子ども達がのびのびと成長できる場所を作りたいとの思い伝えると、多くの方々からご指導いただき、計画が進み素晴らしい園舎を与えられました。子ども達の置かれた環境がめまぐるしく変化をしていく中で、子ども達に対してできることは何か毎日考えながら過ごしています。子ども達はもちろん、保護者の方々も同様に様々な課題を持ちながら子育てを懸命に頑張っておられます。ながみね地域でも同じようなことは言えるかと思います。子ども達が安心して育てられる地域づくりは最優先の事です。子育て支援は国を挙げて進められていますが、国だけの力では、現在の子育て事情には到底その力が及ばないことも感じています。地域自らが、子ども達を安心して見守ることができる地域づくりをしていく必要があります。また、熊本地震が発生し、大きな被害をもたらしました。私がいた2011年に会員の皆さんから意見が上がった防災フェアは、震災を受けた今、強い地域づくりへと繋がる取り組みであることを証明したように思います。様々な環境の変化で更に負担が大きくなった家庭も多いかと思います。子ども達、私たち大人もそうですが、心の傷はまだ消えていない方々も多くおられることも事実です。互いに寄り添う気持ちがこれから望まれます。その時代、時代の要因で私たちに与えられる状況は異なりますが、柔軟に対応できるところが、ながみねファミリーセンターではないかと感じています。互いに一人ひとりを大切に見守ることは

どのような状況であっても、いつの時代でも変わらないことと思っています。地域全体を一つの家族としてとらえ、ながみねファミリーセンターを、「みんなの家」のように思っただければと思います。皆さんの居場所づくりをこれからも目指して皆さんと共に歩いていければと思っています。30周年の歩みに心から感謝いたします。おめでとうございます。